

## 実を結ぶ夏—研究室の延長線

Let's Fly away from the Laboratory!

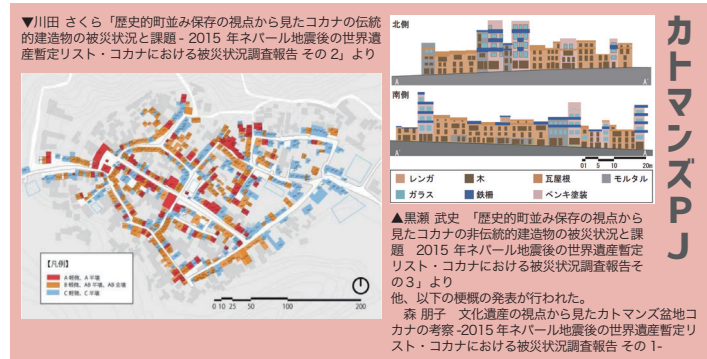
2016.9.30 vol.245

## 日本建築学会大会(九州)、開かれる

Presentation of our Study

text\_NAKAI/M2

8月24～26日、福岡大学にて、日本建築学会大会が開かれました。都市デザイン研究室からも森助教、中島伸助教、修士課程から8名、博士課程から2名が発表を行いました。個人研究、各プロジェクトでの調査研究成果の発表が行われましたので、その概要を梗概の図版にてご紹介いたします。(掲載しきれなかった分も含め是非梗概集をご覧ください)



## 個人研究発表

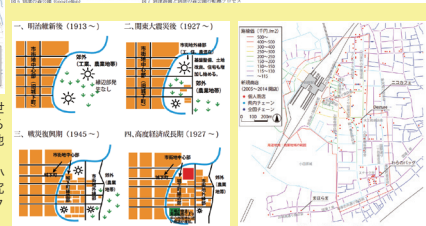
▶瀬川 明日奈「国内の閉鎖した遊園地・レジャー施設の跡地利用に関する研究—既存施設を再活用した事例の閉鎖前後のプロセスと利用者の変化の比較検証—」より

▼柏原 沙織「ハノイ 36 通り地区ハンブーム通りの商業活動の変遷と現状—社会経済組織に着目したアジア大都市の歴史地区保全に関する研究—その2—」より

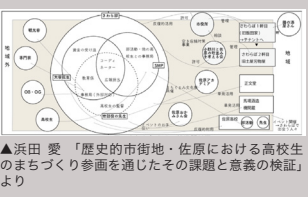


▶王 誠凱「市街化履歴に着目した近世城下町緑地部の形成メカニズムに関する分析と考察—長野県松本市中央四丁目地区を対象として—」より

▶黒本 剛史「中心市街地における小規模個人商店の立地傾向に関する研究—神奈川県小田原市におけるケーススタディ—」より



## 佐原PJ



◆日本建築学会大会に参加して◆  
学会に初めて参加しましたが、似た問題意識を持ち研究されている方がこんなにも多く、全国各地にいるとは思わず、発表やディスカッション、懇親会を含め、非常に濃密かつ刺激的な日々となりました。(M2中井)

## 都市デザイン研系飲み会が開かれました!



大会期間中の25日夜、学会に参加していた都市デザイン研OB・OGの方々、各研究室の学生さんらが集った懇親会が開かれました。約40名の大所帯となり、世代や大学の壁を越えた交流が夜遅くまで賑やかに行われました。

## OB 高橋さん、優秀論文賞受賞!

Congratulations on the Award!

text\_KOYA/M1

都市デザイン研究室 2015 年度修了の高橋舜さんが今年の日本建築学会大会(九州)で優秀論文賞を受賞されました。そこで、社会人になったばかりの高橋さんに、社会人になってみて改めて振り返って見えてきたことについてインタビューさせていただきました。

高橋舜

『非戦災地方都市における建物疎開跡地の整備と継承に関する研究—生産都市再建整備事業に着目して—』  
(論文内容の説明は：第238号(2016年2月29日発行))

&gt;まず、受賞に関して伺いたいです

びっくりしました(笑)評価してもらった理由については、あくまで推測ですけども新規性の高いテーマだということが審査員の先生たちに分かりやすく伝わったからではないでしょうか。都市計画史という分野においては「戦災都市」が1つの重要なトピックとして存在しています。中島伸先生がご専門にされている分野ですね。それに対して私が取り上げたのは「非戦災都市」で、かなりマイナーなジャンルでした(笑)そういうことが色々積み重なった結果、今回の受賞に繋がったのではないかなあと思っています。無論受賞のために書いていたわけではないのですが、半年間これしかやっていたので良い結果を残せて素直に嬉しいです。

>社会人になって論文を書いていた時を思い返して、何か感じることはありますか

研究を進める前の資料集めの段階で、就活しながら



公文書館に通いつめて膨大な資料の収集を行った時期がありました。(参考：第238号(2016年2月29日発行)) 会社に入るとどうしても効率的に進めることが求められがちになるので、全部がむしろにやめてみようって経験をあのタイミングでできたことはとても良い財産になったと思います。あとは、これは論文に限った話ではないですが、プロジェクトや他の研究室の活動での思考プロセスなどは社会人になって、色々なタスクを処理する上で役立っていると感じる場面が多々ありますね。

>これから論文を詰めていく現役の学生に向けてのメッセージはありますか

私達の代では、最後の方とか論文進めていくのが難しくなったりすると、周りの人と全然関係ないビルの話をしたり、研究の進め方について色々な議論をしていました。隣のひととだべったりローソン行ったり(笑)。そういうことが互いに良い刺激を与えら

れていたんじゃないかとすごく思います。修士論文の最後の時期は割と一人で走りがちになってしまうと思うんだけど、そういった議論は案外大事ではないでしょうか。私は特に年明けぐらいからは研究室のひとと積極的に話すようにしていました。これが気分転換になるし、自分が論文を進める上で他の人の考えていることを知ることが出来てとても参考になりました。都市デザイン研にはそういう空気が自然と備わっていて、それが研究室のすごい良い所だと思います。特に、私は外から都市デザイン研に来たということもあってか、この研究室らしきものを感じる場面が多々あり、それを研究を進める際にも上手く役立てることができたのかなと考えています。

前にもどこかで同じような話をした気がするんですが、社会人になってみて改めて振り返ってみると、今みなさんが身をおいている環境はとてつもなく贅沢な場所であることが分かります。結構切羽詰まってくる他と人と話すのも嫌になって籠りがちになりますが、研究にかぎらず後の色々な場面で今の経験が生きていることは間違いありませんので、周囲のひとと議論する姿勢を忘れず、最後まで頑張ってください。

◆インタビューを通して◆  
お忙しい中ありがとうございました! 同じ外部出身者としてこの環境を大事にしていきたいです(聞き手:M1神谷)



## 夏休みの体験。そして次へ

Brush up myself in Summer, and Step out for Next Stage!

text\_KOYA/M1

比較的まとまった時間がとれる夏休みはプロジェクト絡みの用事も増えますが、いつもと違ったことに取り組める時期でもあります。今回は、研究室のメンバーが夏休みに新しく関わりを持ったできごとについて二つ取り上げます。

### PLUS KAGA Project

このワークショップ(以下WS)ではフィールドワークで様々な場所を巡ったのですが、市内にはとても多様な資源を持つ各都市・むらがあって、そこで頑張っている人が非常に多かったです。廃村直前のような集落なのに、修理した伝統的民家でお店や宿を営んでいる人がたくさんいます。集客が見込めなさそうな限界集落で生まれた新たな動きによって、魅力のある街並みや集落にわざわざ人が訪れるような時代・風土なのだと感じさせられます。テーマにあるような「マイナス」の要素は感じませんでした。

#### 課題がある事が魅力

最終日の個人提案発表では「課題を解決しないまち」を提案しました。今回の課題「人口減少」を考えた時に「解くべき課題がそこにある！」ことが人々を惹きつける魅力になるのではないかと考えたんです。そこから発展して「課題を解くんじゃなくて、話し合っ解決していく過程にクリエイティブな仕事が生まれるのでは」ということでの提案です。発表を聞いた地域の方には「課題の当事者や実践者が地区を超えて集まる」という提案の具体例としての「やりたいことバンク」「課題への取り組み過程アーカイブ」など、個別アイデアのウケが良かったです。

#### 『提案の方針は

「Be Wild」(大胆であれ)  
「Be Cute」(魅力的であれ)  
「Be Majotaku」(俯瞰的であれ)』

——三島先生

WSでは、いつもの研究室での緻密さ・論理的正しさよりも「大胆さや一部分でもすぐ使えるアイデア」、いつもと違う

瞬発力が求められている感じが楽しかったのですが、自分としては大胆な提案になり切れなかったのが心残りです。一回のWSへの参加だけでは、地域を動かす実行力のある提案まで持っていくことは難しく、4日間で見えて回れる場所も限られていました。今回のWSでは頑張っている事例を見て回りましたが、それ以外の影の部分も今後見続けて行きたいです。WSの続編が11月にあるらしく、ぜひ参加したいです。

(原文：M2 黒本、編集：M1 神谷)

石川県内で最も人口が減少している加賀市では、将来様々な課題が生ずることが予想されます。そんなマイナスの未来の中にプラスを見出し、地方都市の豊かな将来像を描き出す、次世代構想WS。フィールドワークで得たことから提案を考えます。コーディネーターは非常勤講師の三島由樹先生(参加者：M2 黒本、M1 小林、B4 神蔵)



山中・山代・片山津の3温泉地など特色の異なる中心を持つ加賀市。(中心市街地・大聖寺の街並み)

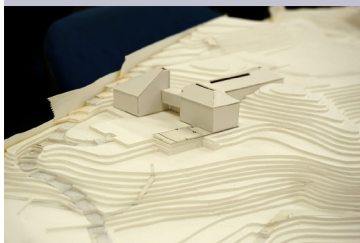


東谷集落では魅力的なりノベのお店が増えている



「移住してきて働く人のかつこよさを、どうやったら地元の若者に理解してもらえらるだろう」

工業化部材の開発から都市スケールの計画やまちづくりまで幅広く手掛けた建築家・大高正人の作品を通して、彼の建築思想に迫る展示会。その展示模型をいくつかの大学の学生が分担で制作しています。〈会期：'16.10.26～'17.2.5〉(参加者：M1 神谷・田中、B4 清水・中戸・福本、M1 岩田(建築学専攻))



材料を他大学と相談しながら制作中。三春は地形と木々が豊かなのでその表現が難しい。設計にも関わっている部分なので丁寧に作りたいです。



歴史民俗資料館(上の写真)は豊かな地形をいたずらに壊すことなく、山の中に半分うずまるように設計されている。

## Urban Design Lab Magazine 9月特集号告知

### 彼らの見てきた風景

先述した日本建築学会大会にあわせて、研究室のプロジェクト・個々人で各地を巡ってきました。

#### 三国PJ 視察旅行(中島伸助教、D2矢吹、M2三名)

建築学会大会前に、三国PJでは佐賀市～柳川市～八女市福岡～八女市黒木を巡り、各地の重伝建地区の様子と課題などを事前勉強を行いながら見てまわりました。三国と比較しながら議論と知見を深められる有意義な旅行となりました。(M2 中井)  
▶八女福岡の居倉  
▶八女黒木の廻水路



#### 被災地熊本視察 (M1 田中)

建築学会大会の参加のついでに熊本へ足を延ばしました。学会発表が終わり、自由にまちを歩きました。(M1 田中)  
▶被災した熊本城



上記の二旅行についてもっと詳しい様子や、研究室のメンバーが今夏訪れた場所やそのレポートについては特集号にてボリュームたっぷりでお伝えしています。是非ご覧ください！

### 新たな命の誕生！



夏休みに中島直人准教授のもとにお子さんが生まれました。  
おめでとうございます！  
お子さんについていくつかお言葉を頂きました。

名前：江里(女の子)

由来：東大に赴任する前に、2年間暮らしたマンションから眺めていた風景。眼下に丸い原っぱの公園、遠くに江の島と水平線。湘南のまちは開放的でゆったりしていて、そこでの暮らしが今の私たちの家族のかたちをつくる契機となった。子供とともに歩む人生の姿が、はじめて具体的にそうありたいものとして感じられた。私たち夫婦にとっての希望の原風景を子供に贈ることにした。

誕生場所：各務原台地のとある病院

一言：頑張ります。

## Information

### 9月のウェブ記事

三国PJ 町並み塾@三国  
神田PJ こども神田まち探検 開催！！  
高島平PJ 第2回高島平プロムナード勉強会  
カトマンズPJ カトマンズプロジェクトチーム、黒島地区を視察。

ぜひご覧ください！ <http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>

### 10月の予定

10/7-9 佐原PJ 秋の大祭  
10/9 三国PJ みにくくみく  
10/13 神田PJ ワテラス講演会  
10/21 研究室会議



### 編集後記

神谷 安里沙

私の夏休みは、ほぼ三国の調査旅行に費やされました。最初は調査で迷子になってばかりでしたが、通算1ヶ月弱かかってやっと迷わずに歩けるようになりました。地図に現れない流動的な境界線で区切られた地区とその名前の対応がわかってくると、急にその土地への親しみが増す感じがします。場所の名前って不思議ですね。

### 『建築と社会を結ぶ一大高正人の方法』展 模型制作

夏休みの直前に中島直人先生からお話があり、建築家・大高正人の展示会『建築と社会を結ぶ一大高正人の方法』(国立近現代建築理資料館)で展示される1/500スケール模型の制作に携わることに。学部時代に建築学科に所属していた時、周辺環境を考えて建築としてどう形にしていけるかに興味を持ちました。作品にどのような周辺の要素が取り込まれているか、周辺の自然やまちのスケールが分かる1/500の模型を作っていく中で何かわからないかと思ったんです。

都市デザイン研究室は福島県田村郡三春町の「三春交流館/まほらホール」「三春町歴史民俗資料館」の二つの建物を含んだ模型担当です。三春は大高さんが幼少時代を過ごし、後に自然知や町並みを活かしたまちづくりに深く関わった縁深い場所でもあるそうです。模型制作に携わる中で書籍や図面を読んでみて、設計部分に様々な工夫が凝らされているのに感動すると共に、材料などの限られた条件の中で設計された部分がどう引き立つか、その形態を生み出す元となった地形や町並みなどを伝えるように表現することの難しさを痛感しました。

#### 周辺を取り込んだ建築とは

今回は情報から想像を膨らませるのが主だったので、周辺を丁寧に読み込んだ建築が実際に人間の目線で見た時にどのように映るのか、そのような目線で形作られた建築がまちの人にどのように受け入れられ、使われているか興味深いです。現地を訪れたら自分の目で確かめてみたいです。(M1 神谷)